

---

後継者について

---

一次産業は、自然災害の影響を最も強く受け、今年のように原発事故の影響まで被ることもあり、残念ながらいつの時代も苦勞の割には経済的に恵まれることの少ないものです。昆布生産者も同じです。私どもが最高級真昆布の産地の函館市立磨光小学校へ毎年訪問し、5年生の生徒さんに昆布や一次産業の大切さの話をするようになって、今年で13年になります。

「ここの昆布は日本一ですよ。こんなに美味しいですよ」と、だしをとったり、真昆布や当店を取り上げていただいた「美味しんぼ」を一緒に読んだりしています。「お父さんの後を継いで昆布漁師になりたい人！」と尋ねても最初は誰も手をあげませんでした。

平成17年、品田教頭先生が赴任して来られて、私たちの授業が終わってから生徒に感想文を書かせ、それを私どもへ送っていただきました。その中で印象的だったのが川端 翼君の作文です。「さいしょはやりたくないと思いました。だって水はつめたいし、力もいるからです」「お金めあてじゃなくて自分じしんの心のもんだいだからコンブをやりたいと思います」（当時のことは平成18年2月22日付の朝日新聞で当時の論説副主幹 川名紀美様が記事にして下さいました。）

その川端君も高校2年生になり、関西への修学旅行の途中、一人で当店を訪ねてくれました。明るく逞しく、誇り高い感じの青年になっていました。物怖じせず息子や私の話も率直に聞いてくれ、予定時間があっという間に過ぎました。磨光小学校を卒業した昆布漁師後継者候補の高校生が、大阪への修学旅行の際に当店を訪問してくれるようになって5年になり、訪ねてくれた後継者候補は20名くらいになります。川端君のお兄さんも昨年来てくれました。この人たちは間違いなく丁寧に良い昆布を作ってくれることでしょう。また、何としてでも幸せな人生を送ってほしいと切に願います。

当店が使用している真昆布は川汲浜のものが中心です。これまで訪問してくれた生徒さんの多くは近隣の他の浜の方ですので当店にとって直接のメリットはないのですが、息子の4代目がこのような取り組みに私たち以上に理解を示し、川端翼君たちを温かくもてなしている姿を見て、私たちの心のもんだいをしっかり受け継いでいることに喜びを感じます。